



第7回 ヨコハマFDフォーラム

「大学における教養教育を、今一度、考える」 ～学生とともに考えるウィズ&ポストコロナ時代の大学教育～

日時

2021年12月4日（土） 13:00～16:30

実施方法

Zoomを利用したオンライン開催（主催校：横浜国立大学）

対象

大学教育に関心のある教職員、学生および一般企業等の方

定員

第1部：定員なし

第2部：先着200名（ブレイクアウトルームを使ってグループディスカッションを行うため）

参加登録

<https://forms.gle/bY2uqjch8yKL7mde6>

- ▶ 上記のURLよりお申し込みください（第2部は定員になり次第締め切らせていただきます）
お申し込みいただいた方には後日、メールでURLをご連絡いたします。
- ▶ 登録締切【2021年12月1日(水)】※お早目にお申し込みください
- ▶ 参加費無料

共同主催

神奈川大学 関東学院大学 横浜国立大学 横浜市立大学

※横浜4大学は2017年2月、FD(教育改善)活動について連携する包括協定を締結しました。

◎お問い合わせ先

横浜国立大学 高大接続・全学教育推進センター

✉ aec-fd@ynu.ac.jp

趣旨説明

新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度はほとんどの大学で全面オンライン授業を経験しました。この経験により、対面でなければ難しい授業もあれば、必ずしも対面でなくとも実施できる授業、もしくは、むしろオンラインの方が適している授業もある、ということが浮き彫りになったかと思えます。その中でも特に、伝統的に大人数クラスで座学式である教養教育科目については、動画等によるオンデマンド型授業で良いのではないかと、という声も聞かれるようになりましたが、安易なオンデマンド化は、大学の存在意義がなくなる恐れを孕んでいます。

一方、教養教育には少人数の語学科目、「教養ゼミ」のような演習科目、「初年次ゼミナール」といった初年次教育科目のように、様々な種類・形態の授業が存在します。よって、大人数の講義科目も含めて、「ポストコロナ時代」を見据え、今後どのように教養教育を行なっていくべきかという議論が必要です。

そこで、本フォーラムでは、大学教育における教養教育の「あり方」や「実施方法」等について学生も交えて議論しながら、ウィズ&ポストコロナ時代の大学教育のあるべき姿について考えます。

「大学における教養教育を、今一度、考える」
 ～学生とともに考えるウィズ&ポストコロナ時代の大学教育～

【全体プログラム】

13:00～13:05	接続の確認・注意事項等の事務連絡 【司会】安野 舞子（横浜国立大学）
13:05～13:10	開会あいさつ・フォーラムの趣旨説明 谷地 弘安（横浜国立大学 理事（教育・情報担当）・副学長）
13:10～15:10 (120分)	<p>【第1部】教職員と学生による実践報告—横浜4大学の教養教育の現状と今後の展望（各大学25分：敬称略）</p> <p><神奈川大学> ・白石 万紀子（副学長、共通教養教育センター所長、経営学部教授） 「ポストコロナ時代の大学教養教育—オンライン英語授業の有効性：教員の視点から」 ・小原 晶奈（理学部3年） 「オンライン英語授業の有効性：学生の視点から」</p> <p><関東学院大学> ・奥 聡一郎（学長補佐（グローバル化推進担当）、建築・環境学部共通科目教授） 「関東学院大学の事例紹介」 ・比護 翼（理工学部4年） 「教員養成のための大学教育の在り方について」</p> <p><横浜国立大学> ・松本 真哉（高大接続・全学教育推進センター副センター長、環境情報研究院教授） 「横浜国立大学の教養教育（全学教育）の現状」 ・大澤 理夏子（経営学部3年）、伊藤 太一（理工学部4年）、齋藤 柊（都市科学部4年） 「学生から見た横浜国立大学の教養教育（全学教育）」</p> <p><横浜市立大学> ・本多 尚（共通教養長、理学部教授）、平井 美佳（副共通教養長、国際教養学部准教授） 「横浜市立大学における共通教養の概要及び実践事例」 ・東山 賢一（国際教養学部1年）、平野 萌香（国際教養学部1年） 「横浜市立大学1年次のゼミ科目を受講して」</p>
15:10～15:30	質疑応答
15:30～15:40	休憩
15:40～16:20	【第2部】意見交換会 参加者によるグループディスカッション（Zoomのブレイクアウトセッション機能を活用：4名で1グループ）と全体共有
16:20～16:30	閉会あいさつ